

今こそやろう減災式

先月の続き『**死なない方法**』とは、何をすれば良いのでしょうか？災害ごとに死んでしまうかも知れない瞬間を考えてみましょう。

地震の場合は、揺れに襲われた瞬間です。その対策方法を考えると、家の耐震化、家具の転倒防止、頭や身体を守る為の知識や道具等、あなたの身に降りかかる危険を最小限に抑える**対応力**が必要です。



津波の場合は、地域によって違います。和歌山県や高知県など、南海トラフ地震が発生し、短時間で津波が襲ってくる地域では、大きな揺れを感じたらまずは



身を守り、とにかく高台へ短時間で避難することです。一方、加古川の場合、津波襲来まで2時間程度あるので、身の

安全を確保し、その後の地震に備え情報を入手できる準備をしておくことが大切です。大きな揺れ→身を守る→地震発生場所の確認～その結果が、沖合での地震だと判れば、本州に大津波襲来の情報入手後、高台へ避難を始めても遅くはありません。でも、油断は禁物ですよ！



その時に、避難場所を家族と事前に話し合っていない場合は、どこに避難をして良いのか・・・？家族は本当に避難できたのだろうか・・・？せっかく、自分自身が避難できたとしても家族が心配で、家に戻る行動を取ってしまうは何の意味もありません。



また、要援護者を避難させる対応者（救助者）は、自分が津波にのまれても溺れにくい準備も重要です。自分と要援護者を守るライフジャケット

（救命胴衣）が、セットで用意されてはじめて救助に当たっても良いといえます。自分の命を、自分で守ることができないのに「**他人の命なんて守ることはできません**」。このような場合、ヘルメット（必要でしょうが、ヘルメットだけでは溺れることを考えた対策の「浮き」にはならないのです。



台風の場合は、前もって台風がやってくることは判っています。特に気象予報では「**過去最大級の台風**」「**強烈な暴風雨を伴う猛烈な台風**」など、事前に情報が入ります。ならば、水に浸かる地域の方は、避難勧告が発令される前に避難しておくことや、自分自身で避難を開始するタイミングを判断できる知識や判断力を身に付けておくことが重要です。浸水が始まってからでは避難行動は危険です。浸水する前に避難しておくこと、特に要援護者になり得る人は、避難勧告発令までに避難しておきましょう。また、暴風にも注意が

必要です。不用意に家から出ないことはもちろん、風が吹き出してから、屋根に登ったり、窓対策をするには遅く、大ケガをする危険があります。

水害の場合、台風と基本同様ですが「ゲリラ豪雨」など突然大雨が降った



り、自分の所では雨が降っていないなくても山間部で大量に雨が降り、突然の鉄砲水に襲われる危険性もあります。山に真っ黒な雲がかかっている場合は、河川敷などで散歩や遊ばないことが重要です。加えて、空模様に興味を持つことも、散歩や遊びの延長線上にある準備行為になります。また、道路が冠水すると、マンホールの蓋が開いている場合も多く、10cm程度の浸水でも甘く見ていたら、マンホールや増水した水路に落ちる危険もあります。万が一、浸水したところを歩かなければならない場合（避難時など）は、進行先を必ず杖や長い棒でつつき確認しながら歩くようにしてください。

火災の場合は、一番重要なことは「初期消火」です。火は小さい状態なら、一般人にも消すことが可能です。消火器の準備や使用方法の確認は当然のことですが、消火器で初期消火の限界点があることも覚えておきましょう。一般に消火が可能なのは、天井に火がまわるまでといわれています。これが初期消火の限界と考えて、天井に火がまわれば避難して、現場に到着する消防隊にまかせましょう。大声で周りの人に火災であることを知らせる「火事ぶれ」も大切です。一人で消火活動を行わずに、みんなで協力して取り組むことが大切です。



これら、すべての災害に共通することは「**自分の命は自分で守らなければならない**」ということであり、その為には自分で判断することが重要なのです。

死なない方法の結論は、「**注意報・警報・特別警報**」「**避難準備情報・避難勧告・避難指示**」など、行政関係から「**逃げろ**」と言われるまで逃げないようでは、命はいくつあっても足りません。自分が「**逃げる判断力**」を養うことが重要です。どこの誰か知らない人に、あなたやあなたの大切な命を託してはいけません。大災害時の判断力だけを養うだけではなく、日頃から**天気予報や空模様に興味を持つことも大切です**。

また、家族のちょっとした言葉や近所の人との挨拶が命を守ることに繋がります。何気ない「**今日は傘を持って行きなさいよ**」「**気をつけてね**」等の会話で、その後の事態は大きく変化します。百年や千年に一度の対策をすることは「**日常の備えと構えが大切！**」あなたとあなたの大切な人を守る為には、何をすれば良いか！それはあなたにしか判らない本当に必要な減災式があるはず。この機会に一度、連絡方法や避難場所の確認など**家族にしかできない防災会議**をしましょうね。